

今週（10月10日から10月13日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、日銀当座預金残高が360兆円台から始まり、13日の年金定時払いによって370兆円台まで増加した。無担保コールO/Nは、10月積み期間の最終調節となるためレートが上昇し、概ね▲0.03～▲0.015%のレンジで取引された。無担保コールO/N加重平均レートは週後半に掛けて上昇していった。ターム物に関しては、今積み期内の16日までの期日物で▲0.025～▲0.02%の出合いが見られた。16日以降にスタートするターム物は、新しい積み期間に入るためレートが低下し、1W～1Mで▲0.04～▲0.035%の出合いが見られた。

固定金利方式の共通担保資金供給オペは、12日に2W・8,000億円がオファーされ、結果は1,350億円（期落ち分2,250億円）で札割れとなった。

●レポ市場

今週のGC O/N物は、概ね▲0.115～▲0.090%程度の水準で推移した。10日のS/N(10/12-10/13)は、▲0.100～▲0.090%での出合い。11日のS/N(10/13-10/16)は、▲0.115～▲0.095%での出合いと若干低下。業者のビッドが厚く、買い進まれた。12日のS/N(10/16-10/17)は▲0.105～▲0.090%程度での出合い。短国の発行要因から業者の売り物が増えたものの、レート上昇幅は限定的だった。13日のS/N(10/17-10/18)は、▲0.115～▲0.105%での出合いとなった。

SC個別銘柄では、5年130～133、10年336～348、20年158～162、30年51～56、40年8～10などカレント近辺の銘柄にビッドの出入りが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、短国買入オペや海外需要への期待からか、利回りは低い水準が維持されたものの、積極的に買いが入る展開ではなく、閑散なマーケットとなった。

12日に実施された3M物の入札では、WI取引で▲0.1875～▲0.182%と強めの出合いが見られる中、結果は平均落札利回り▲0.1865%、按分落札利回り▲0.1768%と概ね事前予想通りの強い入札となった。セカンダリー市場では、▲0.185～▲0.180%の水準で売り買いが交錯する展開となった。

13日に実施された短国買入オペは市場予想通りの7,500億円でオファーされた。業者の在庫が膨らんでいるのか、応札額は25,335億円と多めであったものの、平均落札利回り較差+0.001%、按分落札利回り較差▲0.001%と落ち着いた結果であった。

●CP市場

今週のCP市場は、3,000億円強の週間償還総額に対して、5,400億円程度の週間発行総額となった。建設・商社・不動産・電機業態等から大型発行が実施された。9月末に14兆2,000億円弱にまで減少した市場残高も、今週は15兆円台前半で推移するなど、例年には無いペースで増加している。発行レートについては、発行残高の伸びもあってか、マイナスレートで積極的に玉を確保する動きは限定的となっており、a-1格相当銘柄の殆どが0%近辺での発行となっている。

CP等買入オペは、12日に前回と同額の3,000億円でオファーされ、平均落札レート▲0.003%、按分落札レート▲0.005%の結果といずれも前回比（平均0.005%、按分▲0.003%）で低下する結果となった。前回のCP買入オペからの期間が短かったことに加え、買入対象銘柄から発行レートが高めのものや発行量の多い銘柄が減ったこともあり、ディーラーの売却ニーズが減退したためと考えられる。

●短期金融市場関連指標

	日経平均（円）	新発10年物 国債利回り（%）	為替 （ドル/円中心相場）	無担保コールO/N （加重平均・%）	東京レポレート（翌日物・ T+1スタート・%）	日銀当座預金残高 （億円）
10/9（月）						
10/10（火）	20,823.51	0.055	112.65	△ 0.029	△ 0.094	3,614,300
10/11（水）	20,881.27	0.060	112.33	△ 0.024	△ 0.096	3,637,200
10/12（木）	20,954.72	0.060	112.38	△ 0.021	△ 0.098	3,647,200
10/13（金）	21,155.18	0.060	112.25	△ 0.021	△ 0.098	3,710,300

来週（10月16日から10月20日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
10/16 (月)	8月の石油等消費動態統計(経済産業省 13:30)				
10/17 (火)		20Y 10,000億円 10/19発行			9月の米鉱工業生産・設備稼働率 9月のユーロ圏消費者物価指数改定値 9月の英消費者物価指数
10/18 (水)	函館市金融経済懇談会にて櫻井審議委員講演	TB1Y 23,000億円 10/20発行	交付税借入 10,500億円 10/26借入		米ページブック 9月の米住宅着工件数
10/19 (木)	9月の貿易統計(財務省 8:50)	TB3M 44,000億円 10/23発行	5Y 22,000億円 10/23発行		
10/20 (金)	全国信用組合大会にて黒田総裁講演				9月の米中古住宅販売

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
10/16 (月)	600	▲ 18,600	▲ 18,000	国債買入 全店共通 CP買入 国債補完 ETF買入	▲ 2,300 ▲ 300 700	7,800 1,400 600	7,900	▲ 10,100	TB3M発行▲44000償還36300 2Y発行▲22000償還11500 個人向け3・5・10Y発行▲3500 償還1400
10/17 (火)	0	▲ 4,000	▲ 4,000	CP買入 短国買入		3,000 7,500	10,500	6,500	流動性供給▲5500
10/18 (水)	0	2,000	2,000				0	2,000	
10/19 (木)	▲ 2,000	▲ 10,000	▲ 12,000				0	▲ 12,000	交付税借入▲10500期日10500 20Y発行▲11000
10/20 (金)	▲ 2,000	▲ 11,000	▲ 13,000	被災地支援	▲ 200		▲ 200	▲ 13,200	TB1Y発行▲23000償還11100 エネルギー対策借入▲5500期日5500
週 間 合 計	▲ 3,400	▲ 41,600	▲ 45,000	—	▲ 2,100	20,300	18,200	▲ 26,800	

10/16は日銀予想、10/17以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、新しい積み期間の前半ということもあり、落ち着いた展開が予想される。レポ市場は、参加者のスタンスに大きな変化がなければ、引き続きレートは低位で推移すると見られる。短国市場は、18日に1Y物、19日に3M物の入札が実施予定となっている。引き続き短国買入オペや海外需要の動向が注目される。CP市場は、引き続き事業法人の発行は膨らんでいくものと見られ、発行市場の動向が注目される。

主要なイベントとしては、18日の米ページブックなどが挙げられる。

◆本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされまようようお願い申し上げます。
◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。